

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
(大宮学園教育目標) 「自他を尊重し、自ら学ぶ子どもの育成」 (大宮中学校重点目標) 「ふるさとを愛し、夢や希望をもって未来を切り拓く、心豊かでたくましい生徒の育成」 ～人権尊重を基盤に、個をほめて、集団で認めて、他者(集団)とつなぐ～ (実践上の視点) ○生徒一人一人が「自己指導力」を身に付けるための支援(プロアクティブな生徒指導) ・「安全・安心な風土」の醸成 ・「自己存在感」を育てる ・「共感的な人間関係」を育てる ・「自己決定の場」の提供 ○「居場所づくり」と「絆づくり」 ・自己存在感が感じられる場所作り(教職員) ・主体的・共同的な活動を通して「絆」を紡いでいく(生徒自身)		○大宮学園「授業づくりの視点9」「言語活用カリキュラム」「人権教育カリキュラム」による授業改善に取り組み、生徒、及び保護者のアンケート「授業が分かりやすい」「いろいろと工夫した方法で理解しやすい」「他者の心を大切にし、思いやりがある」の肯定的回答がさらに向上した。 ○急速に変化し続ける今後の社会を生き抜くために必要な学力について、ICTの活用を含め、「なぜ学ぶのか」、また「学び方を学ぶ」など、日々の授業と並行して学びの意義や必要性について指導を行い、保護者へも様々な機会を通じて発信し、学校と家庭での新たな学びについて共通理解を図ることができた。 ○△総合的な学習の時間において、地域の事業所との連携した学びを取り組むことができ、次年度以降の学びの充実につなげることができた。今後、地域の方々と共に探究する学習内容を、PTAや学校運営協議会等との連携から検討したい。 △生徒指導提要の趣旨を十分に理解したうえで魅力ある学校づくりに努めるとともに、不登校の未然防止や自らの進路を主体的にとらえた社会的自立に向けた支援を行う。		○人権尊重をすべての活動の中に位置付けた教育の展開 ○一貫教育を通じた「グローバル人材」の育成 ・すべての人権を尊重することができる生徒の育成 ・多様な他者とつながり、ともに協働しながら学びを深め成長する生徒の育成 ・「授業時数特例校制度」の活用による教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成と探究的な学びの研究 ○確かな学力の育成 ・「心理的安全性」「メタ認知」「自己調整力」を大切にされた「未来社会を幸せに生きるための学力」の育成 ・ICTや地域の「人」「もの」等の資源や財産の活用等を通じた「探究的な学び」の研究 ・生徒の「アウトプット」を大切にされた特別活動の充実 ○生徒指導の充実(プロアクティブな生徒指導) ・生徒が自己指導力を身に付けるための支援 ・生徒が安心でき、自己存在感や充実感を感じられる居場所としての別室運営を充実させること ・生徒が主体的に取り組む共同的な活動を設定すること	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	学校関係者評価	
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	○大宮学園一貫教育の重点の人権教育を基盤に「心理的安全性や居場所の確保」「自己調整力の向上」を目指す。 ①確かな学力の育成 ・学ぶとは、また学び方を学ぶ学習指導 ・ICTの活用と単元構想を大切にされた授業づくり ②授業時数特例校の活用 ・総合的な学習の時間を中心に、「探究的な学び」につながる授業改善の研究 ③学びをアウトプット(表現)するための分掌間連携	・大宮学園「授業づくりの視点9」をもとに、生徒が他者との関わりの中で学びの主人公として多くの力が身に付けられるよう学園、校内の授業研究を通して、魅力ある授業を作り上げる取組を行う。 ・心理的安全性、メタ認知、自己調整力を大切にされた学力の育成 ・授業時数特例校を活用した「探究的な学び」と、教育課程の工夫と適正な実施による「業務改善」へのチャレンジ ・ICTや地域の「人」「もの」の活用を通じた「探究的な学び」についての研究を進める。 ・教科等での学びや成果を、特別活動部などさまざまな分掌での取組と連動させ、外部へアウトプットや表現ができるよう連携を行い、さらなる学びへとつなげる。	○本校における教育課程の見直しを行うことを通じて、学園全体での自己調整学習による授業改善や探究的な学びについての研究が推進でき、学園と学校との共通した授業づくりに取り組むことができた。 ○人権教育を基盤とした系統的、継続的な一貫した取組により、心理的安全性が高まりによる児童生徒の認知能力の向上が少しずつ見られ始めている。 ○△探究的な学びの柱である総合的な学習の時間の充実を図るべく授業時数特例校制度を活用し、地域の人材を活用した新たな内容の構築へと取組が広がっている。 ○△広がりつつある各教科、及び教科間での探究的な学びをさらに研究していく。	○教育の転換期に対する学校の研修や新たなチャレンジの継続が今後も大切で必要である。 ○△次年度以降も市や大宮地域の人材を活用した学びを充実させてほしい。	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学校教育指導の重点、 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>	生徒指導	<p>○生徒指導提要に基づくプロ アクティブな生徒指導の展 開</p> <p>①人権教育を基盤とした心理 的安全性の下での教育活動 により、不登校の未然防止 と早期対応</p> <p>②組織としてのいじめ把握と 未然防止を徹底</p> <p>③学習指導との連動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりが人権尊重の基盤に立ち、すべての生徒を大切に する指導と支援を、家庭や地域とともに協働して行う教育活動を 学校組織として行う。 ・生徒指導提要の再確認により、生徒との良好な関係構築を 目指し、その中から一人一人の実態を的確に把握し、指導、支援に つなげるスタイルの実践強化を学習指導で図る。 ・実態把握と指導（記録）確認のための各種会議の定例化継続、あ わせて、校内人材の有効活用、外部の関係機関等との連携による 総合的な生徒支援によるプロアクティブな生徒指導を取り組む。 	<p>○学園がスタートした時に幼児であった子どもが現在中学生となっ ている。人権教育を学園教育の基盤として取組を継続してきた成果 は非常に大きく、生徒の中に人権尊重の意識が根付いている。</p> <p>○常に学習指導と連動させた生徒指導を展開することにより、学習 単元内での自己調整学習が心理的安全性の中でスムーズに行われて いる。</p> <p>○結果として、今年度、問題事象は0件である。プロアクティブな 生徒指導について取組を進める時間確保がより効果的な生徒指導 へとつながるなど良いサイクルで1年が回っている。</p>	<p>○△生徒たちの人権尊重の意識と行動が学園とされ、アンケート 結果にも反映している点は大変素晴らしい。学園としての取組を 継続すること。</p>
	健康（体育）・安全	<p>○安全、安心な教育環境を確 実に整える</p> <p>①学校として、教職員として 安全な教育活動を行うための 準備を徹底すること</p> <p>②防災・減災教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSに係る取扱いについて、非行防止教室やネットモラル教育、 さらには薬物乱用防止教室を活用しつつ、人権学習や性の学習等 とも連動させ、年間を通して総合的な指導や支援を組み立てる。 ・地震等の自然災害やJアラート、交通事故や熱中症、食物アレルギー などへの丁寧で確実な対応を危機管理の面からも行い、関係する すべての命を守る。 	<p>○△SNSに関わっては、人権教育、道徳、学級活動、情報教育等と 連動させた指導を総合的に行っているが、今後もすべての分掌にお ける活動の中に視点として位置づけ指導を行いたい。</p> <p>○△年間3回の防災、減災に関わる指導や訓練を取り組んでいるが、 学校だけではなく地域等とも連携した取組を計画、実施していき たい。</p>	<p>○△SNSに関わる指導は、引き続き保護者とともに計画的に取り 組むことが大切である。</p>
	危機管理	<p>○命を大切にするために、具 体的に動ける学校を目指す。</p> <p>①命を守るための知識と技能 の習得</p> <p>②人権尊重を基盤とした指導・ 支援</p> <p>③コンプライアンス遵守の徹 底</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な校内研修により、生徒や保護者をはじめ、すべての人 に対する人権尊重、及び人としてのコンプライアンス遵守を徹底 する。 ・命を守るために必要な講習会等の研修を、年度初めはもとより 定期的実施する中で、バイスタンダーとして対応できる知識と技 能を身に付ける。あわせて、他校等へ具体的な取組等を発信して いく。 ・すべての教育活動に対して、リスクマネジメントとセットにクライ シスマネジメントを行う。 	<p>○学園で大切にしている人権尊重の最たるものは生命の尊さであ ること、何かあればつながれる場所があることなどを様々な式辞や 挨拶の中で伝え、誰一人欠けることなく1年を終えられるように する。</p> <p>○年度当初に救命救急に係る講習会を実施し、有事の際に、チ ームとして適切、的確に対応できる知識と技能を身に付けることが できた。</p> <p>○△年間を通した救命救急に係る講習を行う。</p>	<p>○△安全・安心な環境を作ることは学校が一番にすべきこと。救 急法の講習は計画的に実施する必要がある。</p>
	開かれた学校づくり	<p>○地域の「人」「もの」など資 源や財産を活用した学びの 研究</p> <p>①学校（学園）運営協議会、 PTAなど各関係機関との連 携・協働</p> <p>②地域の教育資源の積極的な 教育活動への有効活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育コーディネーター及び地域コーディネーターと 連携したパートナーとしての学園運営協議会やPTA、さらには地 域の事業所等との連携・協働を進め、地域とともにある学校、学 園をさらに目指す。 ・関係諸機関との丁寧な情報共有により、生徒及びその家庭へ の支援等を総合的に組み立てる。 	<p>○学校評議員会、学園運営協議会などをベースに、今年度、地域 の区長協議会や事業所、さらにはそのつながりから大学ゼミ生な ど、多くの方々に学びのパートナーになっていただき、総合学習 の探究的な学びを充実させることができた。</p> <p>○△引き続き、地域の方々とのコラボ学習を通して、地域に包 摂されているという実感の持てる地域とともにある学校を目指し ていきたい。</p>	<p>○△市内や大宮地域の事業所、人を活用した学びは、PTAや運 営協議会等と連携する中で、より効果的な取組に発展させること ができる。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>○今年度取り組んできた授業時数特例校制度を活用した総合的な 学習の時間について、来年度は第3学年で研究と実践を進め、第 2学年から第3学年の連続した内容となるようカリキュラムを創 り上げていきたい。（探究したことを地域で実践するところまで取 組みたい。）</p> <p>○総合学習や特別活動を活用して、生徒たちの学びを校外へア ウトプットさせ、自らの将来に向けた探究のサイクルへとつなげ させたい。</p>				